

## 利用者支援事業、地域子育て支援拠点事業のあり方について

## 1 目標

- 子育て世帯が孤立しないように、気軽に子育て相談や情報交換ができる交流の場が増える。

## 2 現状

- 子育て支援センターや児童館・青少年会館、子ども育成課において、様々な相談や情報提供を各々で実施している。
- 子育てガイドブック「葉みんぐ」は、子ども育成課窓口にて出生及び転入手続きの際に配布している。
- ひろば事業を子育て支援センターや児童館・青少年会館で実施している。
- 保健師等の専門性を活かした相談及び情報提供等を実施している。

## 3 課題

- ① 住民がどこに何の相談をすればよいのか分からない。
- ② また、各々の機関で実施している内容に差がある。
- ③ 住民のライフステージに応じて、包括的な支援が不十分である。
- ④ 子育てガイドブック「葉みんぐ」があまり活用されていない。
- ⑤ 子育て支援センター「ぽけっと」を利用する人が限られている。

## 4 子ども・子育て会議で議論した今後の方向性（案）

- ① 制度にとらわれず、これまで様々な相談や情報提供を行ってきた子ども育成課、子育て支援センター、児童館・青少年会館の相談等の機能を継続し、提供できる場所の周知をする。
- ②④ 子育てガイドブック「葉みんぐ」の情報内容の詳細を子育て支援センター、児童館・青少年会館に熟知し、子育て支援の情報提供や必要に応じた相談・助言等をできるようにする。
- ③ 子ども育成課窓口においても、保健師等の専門性を活かした相談等の機能を継続していく。
- ⑤ 子育て支援センター、児童館・青少年会館との連携を今まで以上に行い情報共有し、役割の確認等を行い、ひろば事業を充実していく。

## 5 地域と行政が協働でできること（案）

- 町民活動団体を含め、相談機能充実や情報内容熟知のための勉強会を実施する。
- 地域と連携し、子育てマップ（仮）等の作成により、分りやすさや利用

しやすさの工夫をする。

- 町内の子育て支援に関わるボランティアや町民活動団体と地域と行政との情報交換や連携を行う。
- 地域ぐるみ（町内会、子ども会など）で子育てを支える交流を行う。

○利用者支援事業とは

子どもや保護者の身近な場所で、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の利用について情報収集を行うとともに、それらの利用に当たっての相談に応じ、必要な助言を行い、関係機関等との連絡調整等を実施する事業

（子ども育成課、子育て支援センター、児童館、青少年会館で実施している。）

○地域子育て支援拠点事業とは

乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業

（子育て支援センター、児童館、青少年会館で実施している。）